

国立大学法人熊本大学 令和3年度完了報告書

令和3年度「これからの時代に求められる資質・能力を育むためのカリキュラム・マネジメントの在り方」に関する調査研究の完了報告書を次のとおり提出します。

1. 調査研究概要

熊本大学教育学部附属中学校において、過去の研究の財産である、総合的な学習の時間における委員会活動の探究活動化や、論理的思考モデルによる論理的思考力、表現力の育成。または、教科等横断的な思考力の育成を発展させて、生徒の資質・能力の育成につなげるとともに、生徒が主体となって、学校を運営していく学校を目指す。

(実践地域における年間実施スケジュール)

月	取組内容
4月	
5月	カリキュラム・マネジメント検討会議①
6月	
7月	生徒アンケート調査
8月	
9月	
10月	附属中学校研究発表会
11月	カリキュラム・マネジメント検討会議②
12月	
1月	中間報告
2月	生徒アンケート調査
3月	カリキュラム・マネジメント検討会議③

2. 調査研究の内容

(1) 研究テーマ

- ☑ a 学校の教育目標等（目指す児童生徒像や教育課程編成の重点など）の設定及び実現に向けた研究
- ☑ b 学習の基盤となる資質・能力の育成に向けた研究
- ☑ c 現代的な諸課題に対応するための資質・能力の育成に向けた研究

(2) 調査研究の内容 ※上記の研究テーマと関連する部分は、それぞれ【a】【b】【c】と表記する。

ア 附属中学校カリキュラム・マネジメント推進の目的の共通理解【a】

イ 本校の実態の明確化と共有化【a】

(ア) 実態アンケートの実施

(イ) アンケートから見えた課題

ウ 本校の教育目標と目指す生徒像（目指す資質・能力）の明確化と共有化

(ア) 綱領から見える目指すべき生徒像の明確化【a】

(イ) 「生きる力」に必要な資質・能力の共通理解【a】

(ウ) 学校教育目標・教育実践目標の共通理解【a】

(エ) 育成すべき資質・能力の重点化【b】

(オ) 育成すべき資質・能力を生徒会と共有化【a】

エ 生徒と共に、資質・能力を育成し、教育目標を達成させるために

(ア) カリキュラム研究開発に向けた【働き方改革】【a】

(イ) 【論理的思考モデル】活用（対話型論証モデルを参考）【b】

(ウ) 学年ごとに単元配列表の作成【b】【c】

(エ) 見方・考え方を働かせた深い学びの実現【b】

(オ) 資質・能力を発揮・活用する場としての課活動の充実【b】【c】

(3) 調査研究の結果明らかとなった成果・課題と改善方策

<成果>

- ・本年度育成したい資質・能力と、育成のための手立てを全職員で共有ができた。
- ・教科研究と実社会を繋ぎ、効果的に資質・能力を活用・発揮させるための総合的な学習の時間の位置づけが明確になった。

<課題>

- ・本校が目指す資質・能力を育成するために、各教科での三角ロジック、対話型論証モデルを活用した実践や、単元配列表を活用した、教科等横断的視点に基づく具体的実践が不十分である。研究授業を行い、実践的研究を積み重ねていく。
- ・総合的な学習の時間におけるコース学習（課活動）における実践もこれからである。教科の学びを総合的な学習の時間で以下に発揮され、生徒がどのように変容していったのかを、10月の研究発表会にて報告する。

(4) 実践校における年間実施スケジュール

月	取組内容
4月	
5月	カリキュラム・マネジメント検討会議① 研究テーマ・研究の方向性についての共有 前期のコース選択
6月	小中連携の登下校交流会（交流推進課） 生徒による授業研究会①（学習リーダー会）
7月	カリキュラム・マネジメント検討会議②
8月	
9月	生徒が企画・運営する避難訓練（総代会）
10月	後期のコース選択
11月	生徒による授業研究会②（学習リーダー会） 「イングリッシュウィーク」…英会話放送（放送企画課）や留学生との交流など
12月	カリキュラム・マネジメント検討会議③ 「後輩に1分間スピーチをしに行こう」（交流推進課）
1月	生徒が企画・運営する避難訓練②
2月	生徒による授業研究会③（学習リーダー会） 生徒が運営する討論会（社会探究課） 生徒の仮説・検証に基づく提言（統計調査課）
3月	カリキュラム・マネジメント検討会議④ 令和3年度の取組の反省及び令和4年度の計画

3. 実践地域全体としての調査研究の結果明らかとなった成果や課題と改善方策

（○：成果，●：課題）

- 実践学校のカリマネの理論や計画、生徒の実態、目指す資質・能力は、明らかになった。
- 研究発表会で報告された、見方・考え方を働かせ、教科の本質に迫る授業実践は、主体的・対話的で深い学びにつながる有意義な実践であった。
- 研究発表会が、各教科の実践に重きが置かれていたため、教科の中のカリキュラム・マネジメントは、見えたものの、教科横断的視点に基づく実践や、外部リソースの活用、教科と総合的な学習の時間との関連といった視点が見えてこなかったのが現状である。コロナ禍のために予定していた活動が制限されたり、実施できなかつたりしたという面を考慮しつつも、この3年間の研究で培った教科研究が、他教科等とどう有機的に関わっていくのか、どうやって学校運営に生徒を巻き込んでいくのか、その実践が急務であると言える。附属中学校との連携を密に行い、目指す資質・能力育成のためにサポートしていく。

4. 参考資料

【必須】

①実践地域の取組の概要が分かるもの

②カリキュラム・マネジメント検討会議の資料

※ 2年目は①実践地域の取組の概要が分かるものに代わり，カリキュラム・マネジメントの展開に資する手引きを提出すること。

【任意】

・各種アンケート結果

・その他 参考となる資料